

目黒川流域河川整備計画（原案）へのご意見等について

整理 番号	ご意見・ご提案（要旨）	回答（案）
1	1時間あたり100mmではなく、75mm規模の降雨とした根拠は何か。	<p>東京都の長期計画において、時間100mm降雨を最終的な目標としておりますが、整備には長期間を要するため整備水準を段階的にレベルアップしています。</p> <p>「東京都内の中小河川における今後の整備のあり方について最終報告書」（平成24年11月中小河川における今後の整備のあり方検討委員会）において、下記8項目の検討を行ない、目標整備水準を設定しております。</p>
2	75mmとした安全性をどう評価しているのか。	<p>①新たな基準点と計画降雨の設定 ②整備手法の基本的な考え方整理 ③降雨状況等から見た目標整備水準の検討範囲の設定 ④整備効果から見た検討 ⑤整備期間から見た検討 ⑥費用対効果から見た検討 ⑦超過洪水時の減災効果から見た検討 ⑧実績降雨の溢水解消効果から見た検討</p> <p>④～⑧の各評価結果を踏まえ、総合的に今後の整備水準を評価し、区部河川では1時間あたり75mm降雨の整備水準に引き上げを行うことが望ましいという提言を得ました。</p>
3	目黒川流域河川整備基本方針（平成26年5月）の通り、100mm対応の整備予定はあるのか。	<p>その後、委員会の提言を受けて都が策定した「中小河川における都の整備方針～今後の治水対策～」において、区部河川では時間最大75mm降雨に目標整備水準を引き上げることとしました。</p>
4	目黒川流域河川整備基本方針（平成26年5月）を改定し、100mm以上の降雨に対応していく予定はあるか。	東京都の長期計画では、時間100mm降雨を最終的な目標としておりますが、今後の気候変動や降雨状況等を踏まえて対応を考えてまいります。
5	河道（護岸、河床掘削等）の整備完了目標はいつまでとしているのか。	河川整備計画の整備完了目標期間は概ね30年間としておりますが、早期に完了できるよう調整を図ってまいります。

整理 番号	ご意見・ご提案（要旨）	回答（案）
6	<p>河川整備計画を流域全体のプラットフォームとして考え、総合的な計画を示して欲しい。特に、下水道との連携、水質改善などは抽象的で計画が示されていない。</p>	<p>ご指摘の通り、河川整備計画は今後概ね 30 年間の河川事業の根拠となるものです。下水道との連携については、北沢川、烏山川、蛇崩川の暗渠区間で内水被害の防止・軽減、河川への流出抑制のために調節池を設置します。</p> <p>また、水質改善では、雨天時に合流式下水道から河川や海などへ放流される汚濁負荷量の削減について協議を進めています。引き続き地元区、関係機関と連携し、水質改善について検討を進めてまいります。</p>
7	<p>1 時間 75mm 対策をとるとのことだが、今までの例からすると降水対策はキリが無いように思う。調節池の建設工事は長い年月がかかるので、今後の人口及び土地利用の予測をきちんと行い、随時見直しをしてほしい。</p>	<p>本計画については、洪水等に対する整備水準の見直し、流域の社会的状況等の変化、水質などの自然状況の変化や新たな知見、技術革新などにより計画期間内であっても必要に応じて見直しを進めていきます。</p> <p>（第 3 章 第 1 節）</p>
8	<p>平成 9、11、12 年の目黒区三田の内水被害は時間最大 101mm もあり、下水道の流下能力不足、下水道からの排水困難など具体的な原因がわかっているはず。</p> <p>500m 程度上流の船入場調節池へ雨水を廻す、陸上自衛隊目黒駐屯地、中目黒公園等の公共用地に調節池の新設等、下水道と連携した整備計画を示して欲しい。</p>	<p>目黒川流域では、河川と下水道の連携として、「第 4 章第 1 節(1)②調節池の整備」で北沢川、烏山川、蛇崩川の各区間に調節池の整備を計画しており、内水被害防止・軽減と合わせて河川への流出も抑制します。また、事業実施にあたっては、下水道管理者と調整の上、早期に事業着手が可能なよう検討を行なってまいります。</p>
9	<p>暗渠となっている烏山川、北沢川、蛇崩川の内水氾濫は流下能力不足と思われる。雨水浸透設備等含め、下水道と総合的な整備計画を示して欲しい。</p>	<p>目黒川流域では、河川と下水道の連携として、「第 4 章第 1 節(1)②調節池の整備」で北沢川、烏山川、蛇崩川の各区間に調節池の整備を計画しており、内水被害防止・軽減と合わせて河川への流出も抑制します。また、事業実施にあたっては、下水道管理者と調整の上、早期に事業着手が可能なよう検討を行なってまいります。</p>

整理 番号	ご意見・ご提案（要旨）	回答（案）
10	水質が環境基準を満たしている旨の記載があるが、下流ではいまだに白濁化したり、悪臭が発生している。その点の今後の展望、具体的な解決策があるのか。	東京都環境局の水質調査は、環境省の水質調査方法に準拠しており、採水日は晴天が続き水質が安定している日としています。そのため、環境基準は大雨時の影響（合流式下水道の放流を含む）を排除した条件の下で満足している状況です。
11	「水質改善の検討に努めていく」ではなく、具体的な計画を示すべきである。	水質改善については、下水道管理者と雨天時に合流式下水道から河川や海などへ放流される汚濁負荷量の削減について協議を行っています。
12	大雨時に合流式下水道から汚水混じりの雨水が放流された際の水質が環境基準を満たしているのか。	また、地元区においても、水質浄化実験等を行い、その効果について現在検証をすすめているところです。
13	白濁化やスカム、臭気が発生した場合も水質は環境基準を満足しているのか。	引き続き、地元区、関係機関と連携し、水質改善の検討を進めてまいります。
14	現状下水道に流している流域からの各湧水を目黒川へ流すことで水量を確保し、悪臭の原因を改善できないか。	地元区や関係機関と連携し、目黒川へ直接流入している湧水を保全してまいります。また、現行の法律においては、地下水は下水道へ放流することとなっておりますが、止水対策を施してもなお地下構造物に漏出する地下漏えい水の導水など、今後とも目黒川の平常時流量の確保に努めてまいります。
15	目黒川の水質を改善するためには、浚渫が必要だと思う。ぜひ、P. 28にあるように、河床掘削を早期に実施し、ヘドロを取り除いていただきたい。	治水対策のための河床掘削早期実施に向けて、関係機関と調整を図ってまいります。
16	洪水予報もあるが、予報では建築物の浸水を防げるわけではない。	洪水予報は避難のためのソフト対策として運用しています。今後の治水対策で1時間あたり75mmの降雨に対し、河道整備、調節池の整備とともに流域域対策を進め、建築物の浸水を防いでいきます。

整理 番号	ご意見・ご提案（要旨）	回答（案）
17	<p>防災船着場新設予定地下流には、五反田ふれあい水辺広場があり、すでに品川区主催の品川舟運プロジェクトで船着場として利用されている。新設するのではなく、五反田ふれあい水辺広場の活用、改良で十分なはず。</p>	<p>五反田ふれあい水辺広場に設置されている船舶の乗降設備は、河川管理用として区が所有する小型船舶の乗降を目的に整備したもので、乗降設備の構造上、使用できる船舶が小型船に限られています。また、河床に護岸の構造物があり、干潮時は使用できないといった制限などがあるため、防災船着場として適当ではありません。</p> <p>新たに整備する予定の防災船着場は災害時の地区内残留地区※1である五反田地区における陸上輸送網の補完として必要なものであり、周辺地区のまちづくり等とあわせて場所を決定しております。</p> <p>なお、品川舟運プロジェクトは上記の制限の中で運用しているものとなります。</p> <p>※1 地区内残留地区…地区の不燃化が進んでおり、万が一火災が発生しても、地区内に大規模な延焼火災の恐れがなく、広域的な避難を要しない区域</p>
18	<p>船入場までお花見の船が航行できるようになると、より目黒川が賑わうと思う。河床を舟運の観点から掘り下げることができないだろうか。</p>	<p>ご意見として、今後の参考にさせていただきます。</p>